

浦塩出兵南之帝國政府宣言及出兵關係

0005

軍令部
軍令部
供電

帝國政府、帝國駐露國人民、討死旧東ノ隣

公表しあり

本日帝國政府、滿洲出兵ニ関シテ、宣言ヲ

他、對シテ、知ラズ

力三、水、智、野、隊、司、令、官

力五、野、隊、司、令、官

電報(平文)

八月三日午後五時十分
發電 濟

次友

明正印刷

0006

海軍
電務局
7.8.3

証々重シシ際國ノ速ニ秩序ヲ恢復シテ健全
 ナル程達シテ遂ニコトヲ衷心切望シテ止マサレ所
 ナリ然レ近時際國ノ政情著クシテ混亂留復
 シ外迫リ抑海軍之ノ力ナキニ乘シテ中歐諸國
 之ニ破迫リ加フコト愈甚シシ其國陸軍遠ク
 在東層層浸漸シテ現ニハ全クスロワリシ
 軍ノ東進ヲ阻礙シ其軍隊中ニ多數ノ

明治印刷

0007

排他信屬混入之實際、於其指揮權

ヲ掌握ニ事跡顯然クモナリ

抑モ、予クソコノ軍ニ達國ノ宿志ヲ

抱キ、始、聯合の強ト共同討敵スルニカ故

其安危、繫ル所也、其國ニ影響者ニテ、敢

シトセス、是レ聯合の強及合衆國政府ノ同軍ニ

對シテ大ノ同情ヲ寄與スル所以ナリ、今ヤ聯

明治印刷

0008

金の強國軍の西比利亞方面に於て其の
 常力著しり迫害ヲ被らざる報に接し空に
 拱手傍觀するに足らざる業に己の其兵多ク博
 三派遣はるる金銀國政府も亦同し其危を憂
 詔ノ帝國政府ニ接して先づ速に救援ノ軍
 隊ヲ派遣せしむることヲ以てせり是に於て帝國政府
 金銀國政府ノ提議ニ應じて其友好ニ對し

明治印刷局

0009

且今次派兵ニ於テ聯合的強ニ付シテ武ヲ齊

スルヲ復信ノ實ヲ著ルニ為連ニ軍務ヲ整備

シ先ツ之ヲ捕擄ニ殺害セムトス

叙上ノ措置取ルニ方リ帝國政府ニ一意露國

及露國人民ト恒久ノ友好關係ヲ更新セム

コトヲ帝國國スルニ以テ帝國同國ノ強土保全

ヲ尊重シ保セテ其國内政策ニ干渉セザルノ

明治印刷

0010

海軍

既堂直下ノ声略ト共ニ所期ノ目的ヲ達ス
ルニ行方ハ政治的又ニ軍事的ニ具主権ヲ侵害
スルヲナリ(東)ニ撤兵スルヲコトシテ茲ニ宣言ス

(既)

明治印刷

0011

供覧

野下

軍務局

陸軍戦時給典ノ件

陸軍省軍務局軍事課川島少佐電送係

本件ニ就テ、左ノ通決定兩日中發表ノ旨

一、西比利匪派遣ノ部隊ニ 2/5 支給

二、第十二師團ノ番守部隊ニ 1/5 支給

三、一部分ヲ分派シタル部隊ニ 1/5 支給セズ

(注) 一、工兵、電信、電話隊等、小部隊ヲ扱取リ在内地

部隊ヲナク

二、運輸本部ニ 戦時給典ヲ支給ス (1/5 元 2/5 元 支給セズ)

經理局長

勝

第二課長

田

小林 8.4

海

軍

0012

7.8.8.

7.8.8.

極
秘

28-7

(四)

浦約紙巻陸軍之討

軍令之起自海軍

軍令之起自海軍

軍令之起自海軍

一隊長

軍令之起自海軍

海軍

0013

7-8-7

關防

是レ文ヲ決定セ

浦潮派遣軍司令官ニ與ル訓令中ノ要項

一、浦潮派遣軍司令官ハ聯合軍隊

各國ノ返答ヲ待テ出發迄ニ確定ス

ヲ指揮シテエックスロワック之軍ヲ救援シ沿海州及黑

龍州ニ於ケル獨塊函國及之ニ加擔スル執力ヲ排

除シ該地方ノ治安維持ニ任スヘシ

二、浦潮派遣軍司令官ハ其ノ指揮ニ屬スル諸隊ヲ以テ

先ツ浦潮ニヨリスル間ノ地區ニ確實ナル根據ヲ

占メ爾後成ルヘク速ニハバロフスクノ附近ニ進出シテ

烏蘇利鐵道沿線ノ諸要地ヲ守備シ且ツ情

況ニ應ジ其ノ一部ヲ更ニ黑龍鐵道及黑龍江

ニ沿ヒ西進セシメ得ル準備ニ在ルヘシ

正式ノ意味ノ訓令決定ニハテズ
今回ノ出兵ハ外交ヲ為シ、俄ニセルレテ
目的ヲ知ラズシテ、軍ノ要スル命令ノ一部ヲ
終ラズシテ、據ル心ヲ執ルニ置ケルニシテ、
程ヲ定メ、好ナク

0014

軍司令官の如何を事項の心得を其
個條書に就て意見の求むるを乞ふにテ
左に記す

第三項 英米佛支軍の專ら之の沿海州及黑龍州を
指す事と云々、辭句の沿海州方面は之を帝國ノ
勢力扶植の明かに於て英米の力に如く觀し、本文ノ
方針に從て聯合國勢力の指す事と同方面に米國ノ
勢力扶植せん、此の如く將來帝國の國防上不利
トスル所多きを故に此一節を全然削除せん可
ハ列國勢力の之を東清鐵道に由り後負加ふ方面
に進入せしめザルコトヲ主旨トスルを如く改めん可
トス

三項未段
沿海州にさか
防直スルに努
べしハ語勢強
キ、直ク今ウシ
城曲ミ禍に廻リ
トスル (新花)

海軍

0016

日支協約も
 二十六年支那軍
 人行動の制限
 此下(支那領
 域内)能くハ
 不可能ナリ
 故に支那領
 域内(支那)

改案

英未佛~~英~~年ハ妨~~妨~~テ東清鉄道ニ用リ後更~~加~~
 兩州方面ニ進入セシメ大ニ妨~~妨~~テ止ムノ旨ナリ
 云々

(主目ヲ脱キテ方格ヲ消ス)

(注) 案ハ此ニ

原案ノ儘ニシテ十三項ノイナモ列強ノ旨ヲ示ス

アトク

在一項ヲ三四五項附近ニ加シ

沿海ノ不逞~~不逞~~帝國領内ヲ指~~指~~テ居~~居~~トシテ
 緊密ニシテ連繫ヲ保持ス

海軍部

如

海

軍

海軍

之レリ軍令印あり通シ
ヲカシ

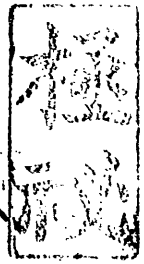
三 沿海州派遣ノ帝國海軍指揮官トシテ常ニ密接ナル連

繫ヲ保持シ策應ニ努ムル

(註) 陸海軍共通ノ暗号ヲ支拂シ置ルノ要アリ

明治印刷

0018



七八五
七、八、五
五、七、八、五
五、七、八、五

浦潮派遺軍司令官ニ與フル訓示案



浦潮派遺軍司令官ニ與フル訓示案

一、帝國今回ノ出兵ハ「チエック、スロワック」軍ヲ救援スル目的

トシ露國又ハ露國人民ヲ敵トスルモノニ非ラサルコトハ

帝國宣言ノ明示スル所ナリ、克ク此趣旨ヲ體シ、遺

憾ナキヲ期スヘシ

二、「チエック、スロワック」軍ヲ救援スル為ニ主トシテ之ヲ

推進シ、其後方地區ヲ守備スルヲ本旨トシ、我軍ノ

戦闘加入ハ、救援ノ為ニ手段ナキ場合ニ限ルモノトス

三、帝國軍司令官カ聯合軍ヲ指揮スルハ、聯合各國ノ

委任ニ基クモノニシテ帝國固有ノ權利ニ非ス從テ軍
司令官ノ行動ハ常ニ此ノ特種ノ性質ヲ顧念スルコトヲ
要ス

英米佛支軍ハ專ラ之ヲ沿海州及黑龍州ニ指導シ

該軍隊ヲシテ東清鐵道ニ由リ後貝加爾州方面ニ進入セシ

メサルニ努クメ止ムヲ得サル場合ニ於テモ爲シ得ル限り其兵

力ヲ小ナラシムルヲ要ス

列國勢力ノ極東露路領ニ固定シ或ハ北滿洲ニ進入ス

ルヲ防遏スルニ努ムヘシ

此等諸國勢力ノ北滿洲ニ進入スルニ防遏スルニ努ムヘシ

0020

四、後貝加爾州方面ニ派遣スヘキ帝國軍ハ情況ノ進展ニ伴ヒ浦潮派遣軍司令官ノ隸下ニ屬セシメラルル者ナリ其以前ニ在リテハ軍司令官ハ該方面ニ行動スル部隊及関東都督ト密接ニ連繫シ策應ニ努ムヘシ

五、聯合軍相互ノ間ニ於テ協定ヲ要スル事項ハ軍司令官ニ於テ適宜之ヲ處理スヘキモ事重大ニ亘ルモノハ豫メ請訓ス可シ(別紙参考書添付)

六、帝國政府極東露路領ニ於ケル及過激派諸團體

0021

(浦潮政府又ハ
ホルクト政府如キ)

ニシテ獨逸勢力排除ヲ目的トスルモノハ

勉テ之ヲ融和統合セシメ以テ統一有力ナル政治機

関ヲ組織セシムルハ帝國政府ノ希望スル所ナリ

七、地方行政ハ事情ノ許ス限り露國人ノ執行ニ委シ政

務部ヲシテ之ヲ監視シ要スレハ之ニ支援ヲ與フルコト

ヲ妨ケス又政務部ヲシテ露國行政機關ト軍トノ

聯絡調和ヲ圖ルノ任務ニ當ラシムヘシ

八、日露路ノ親交ヲ念トシ露國ノ主權ヲ害セス露國人ノ

權利若ハ利益ヲ重シシ常ニ人民ニ對シテハ穩健

ノ手段ヲ執リ其信賴ヲ得ルニ努ムヘシ

九、各國軍隊相互間ノ軍事ニ関スルモノヲ除キ外國トノ
交渉問題ニ就テハ政府ノ訓令ヲ請フヘシ
地方的涉外問題竝各國領事及露國人民ニ関スル
事項ハ政務部ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ

露國人民ニシテ我軍ノ俘虜トナリ若クハ我軍ニ不
利ヲ圖ルモノニシテ我軍自ラ拘禁處四討ヲ要スルモ
ノノ外ハ地方行政廳ヲシテ處分セシム可シ

十、獨逸俘虜ハ假令我ニ抵抗セサルモノト雖聯合軍ノ

0023

8500

俘虜トシテ便宜ノ地点ニ收容スヘシ

土地方民ノ救済、商業ノ發展並利源開發ニ關スル

帝國臣民ノ正當ナル企業ニ對シテ、軍事行動上

支障ナキ限り之ニ便宜ヲ與フルニ努ムヘシ

其、帝國臣民ニシテ不法不正ノ所業ヲ行フ者ニ嚴重

ナル取締ヲ行ヒ必要ニ應シ退去處分ヲ行フヘシ

其、謀報ハ直接作戰ニ關スルモノノ外尤記事項ニ

及フヲ要ス

イ、沿海州及黑龍州内ニ於ケル利源

0024

只、列國官民ト露路國官民トノ關係
八、列國官民ノ政治的及經濟的施設又ハ計畫
ノ實情

二、露國官民各派ノ意向及其行動

十四、沿海州各地ニ散在スル軍需材料ヲ監視シ其散
逸ヲ防遏スヘシ

十五、測圖ハ別紙要領ニ基キ實施スヘシ

十六、運輸、通信、補給及衛生ニ關シ指示スルニ別
冊ノ如シ

十七、金融、物資供給、土地生産調査、言論機關指

導等ノ問題ニ就テハ別ニ訓令スル所アルヘシ

十六、帝國政府ハ別ニ特設極關ヲ整備シ物資ノ需
給ヲ按配調節シ西伯利住民ニ廣ク所要ノ物
資ヲ廉價ニ供給シ以テ其窮乏ヲ救濟セムトス
此際粗悪ノ物資ヲ販賣シテ暴利ヲ貪ルル奸
商ハ嚴ニ之ヲ取締ヲ要ス

大正七年十二月廿七日起案

起案者 捺印

告

十一月廿八日發付

發付掛 捺印

發付後起 捺印

案者捺印

軍務局長

第一課長

副官

參事官

大正七年十二月廿七日

軍令部長

第一班長

大張

大張

大臣

極秘

各鎮、第一三艦隊司令官、各要隘南防遣支練習艦隊司令官

時局、關、西比利亞及北滿州方面、派遣之件

官房機密第一八八號

海

軍

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	人事	軍務	官房	局部
												十二月廿八	受月日
													發月日

第三及第十師團(第七師團)之動員時動員しアラス

列部隊中隊後備役人員及行李、大部、茲各師團

派遣せしむる後方勤務部隊、若于、末、年、一、月、中、旬、

全、二、月、中、旬、日、内、地、へ、帰、還、せ、ら、る、。、二、ト、ト、十、五、日、上、

心得へし

右訓令ス

海軍

第一第三特務艦隊司令官

次官

駐英米佛武官

電報暗號

十二月二十八日
午後三時五分
電報集

秘密
本件當分秘トス
以下ハ別カ
ト内
駐米武官ニ
中將ニ
傳ヘテ
加ルニ
ト

改正印刷

0030

大正八年二月三日 起案 起案者 二月四日 發付 發付者 發付後起 案者捺印

主 軍務局長

第一課長

大臣

副官 小林

次官

參事官

局員

軍令部長

次長

第一班

第三班

極秘

各鎮第一二班司令官
各要臨南洋遣支練習艇司令官

西路飲派遣 帝小陸軍二團之件

番號

官房機密第一二二號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	總政	人事	軍務	官房	局部
												官房	二月三日	受月日
												二月三日	二月三日	發月日

0031

官房
機密

第三四

電報

(暗部)

十月二十八日附電報

次電報用フ

「西隊派遣帝之陸軍ノ内地帰還ニ関シ官房機密第一八四號ヲ以テ傳達
 七部隊外更ニ山砲兵独立大隊 全独立中隊 野砲重砲兵独立大隊 第一
 航空隊 飛龍隊 第一自衛車隊 第三 第十一師團 輜重監視隊 第二第十
 師團陸上輸卒隊等ヲ二月中旬ヨリ同月下旬ニ互リ内地へ帰還セムルコト
 トナレリ」 本旨心得レシ
 右訓令ス

第一、第二師團 艦隊司令官

駐英 佛 米 武官 竹下中将

本件當分機密トス 前出全文

完

次官

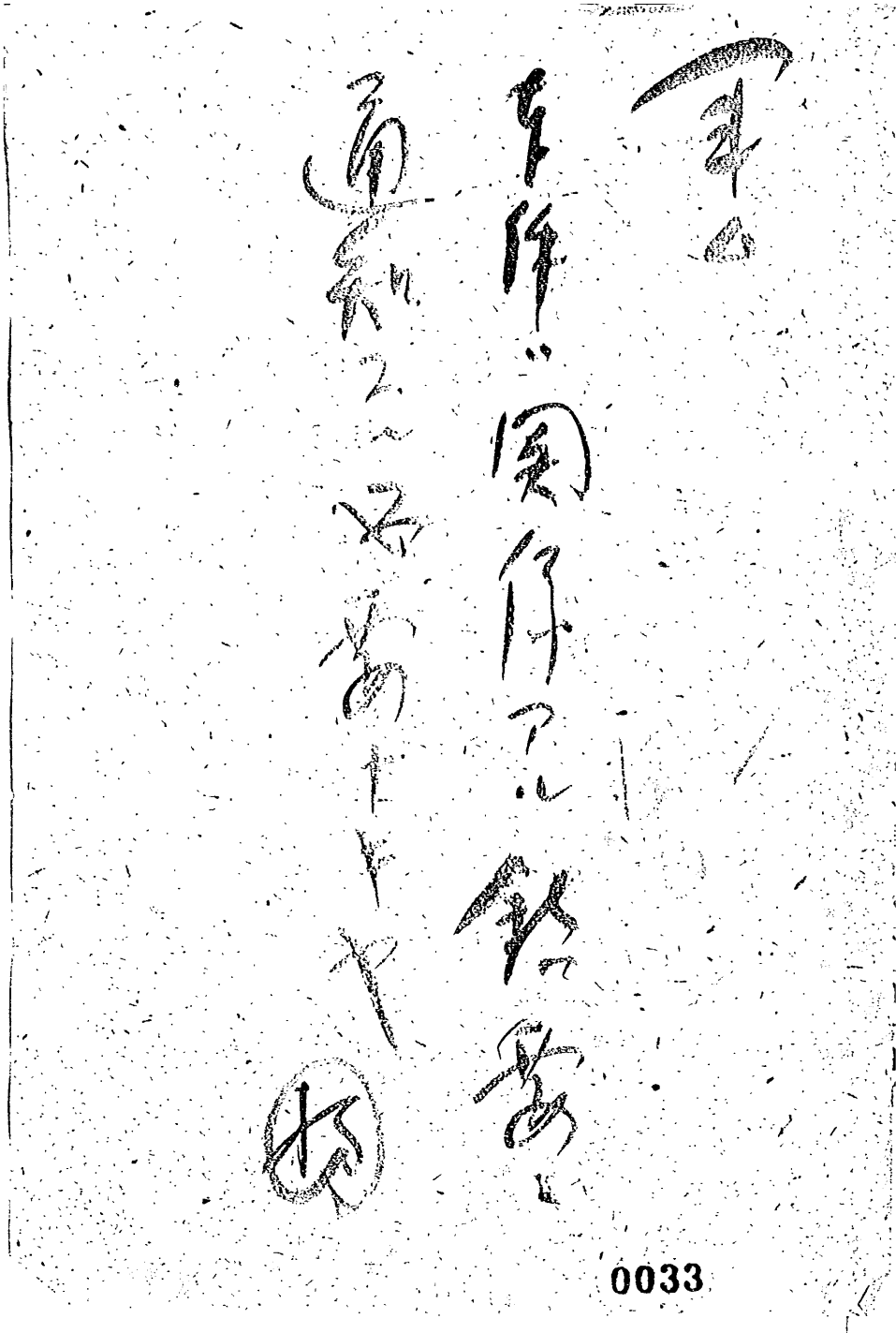
二月四日
午後五時三十分 發電濟

住

一〇二五

明治印刷

0032



起案罪紙

大正八年三月七日起案

起案者 捺印

三月七日發付

發付者 捺印

發付後起

發付後起

發付後起

軍務局長

第一課長

第二課長

副官

局員

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

參事官

軍令部 軍令部長

各隊長

各班長

大正八年三月七日

大臣

極秘

各鎮、第一、第二艦隊長官
各要隘、南防、遣支、練習艦隊司令官

西比利亞方面派遣中、第、十二師團、第、三師團、第、七師團

西比利亞方面派遣中、第、十二師團、第、三師團、第、七師團

官房機密第二七一號

軍令部	水路	陸軍	教育	造兵	技術	法務	經理	醫務	機關	人事	軍務	官房	局部	受月日	發月日

0034

及南部島嶼里派遣隊ハ軍事行動及之ニ關聯セル
 政務並運輸交通ニ關シテハ浦塩派遣軍司令官ヲシテ
 之ヲ統轄セシメシムル處末四月ヨリ今熱浦塩派遣軍
 司令官ノ隸下ニ入り又第七師團ハ第十六師團ト交代セシ
 ノラトマトト相成候條此旨心得ヘシ
 右訓令ス

第一持務艦隊司令官

次官

駐支武官 外下中將

電報(暗號)

官房第七五番電報機

電報(暗號)

三月七日 午後三時三十分 發電濟

極秘、以下前出電報ノ内但相成候ヲナリニ作ル

明治四十四

0035



海軍

大正八年三月二十五日電報案（暗號）

海軍軍令部長

第三艦隊司令長官

第五戰隊司令官

宛

大海機密第四三九號

交代歸還等ノ爲浦鹽ニ於ケル我陸軍兵力寡少トナレルニ付南滿洲ニ駐
割ノ豫定ナリシ第十六師團ノ一個聯隊ハ浦鹽ニ派遣セララルコトトナ
リ二十三日參謀總長ハ右ニ關スル奉勅命令ヲ傳達セリ」命令寫郵送發
電先第三艦隊司令長官、第五戰隊司令官

（電報本文終）

宮田

0036

參考（參謀本部電話） 大正八年三月二十五日

現在浦鹽ニ駐屯シアル陸軍兵力

第十二師團ヨリ 一個大隊

第三師團ヨリ 二個大隊

第七師團ヨリ 二個大隊

右ノ内第七師團ハ四月内地ニ歸還ノ筈

目下ノ情勢ニ於テ浦鹽ニ三個大隊殘留スル丈ニテハ手薄ナリ故ニ

南滿洲ニ派遣ノ豫定ナリシ第十六師團ノ一個聯隊ヲ浦鹽ニ派遣ス

ルコトトセリ

海軍

參謀本部 作第五九〇號一

部隊派遣命令傳宣ノ件通牒

大正八年三月二十四日 參謀總長 男爵 上原 勇 作

海軍軍令部長 男爵 島 村 速 雄 殿

第十六師團ノ歩兵一聯隊浦鹽派遣ニ關シ關係官憲ニ別紙命令傳宣濟ニ付及通牒候也

袋田 精

0038

參謀本部 命令 第三六號

命 令

- 一、第十六師團ノ歩兵一聯隊ヲ一時浦潮派遣軍司令官ノ隸下ニ増加ス
- 二、第十六師團長ハ南滿洲ニ駐劄セシムヘキ歩兵一聯隊ヲ浦潮ニ派遣スヘシ該聯隊ハ浦潮上陸ノ時ヨリ浦潮派遣軍司令官ノ隸下ニ入ルモノトス
- 三、細部ニ關シテハ參謀總長ヲシテ指示セシム

大正八年三月二十三日

奉 勅

參謀總長 男爵 上 原 勇 作

浦潮派遣軍司令官 大谷喜久藏殿

關東都督 男 爵 中村雄次郎殿

第十六師團 長 守 正 王殿



實田 啓

0039

キタニキ止勿居ニ庄総サマニ第十二師團ニ帰還スニモトナシ

右ノ同ズルノ事ナシニ以テ上陸ノ事ナシ

二、ヨラエ空シニ在リ陸兵ニ第十二師團ヲ派遣スルニカニナシカ故ニ

一、河船支用ノ事ナシ待テ多シ上カ十四師團ノ陸

ト支代ノ事トナシ

三、軍部ノ南洋ノ時札ニ達セリハハロフゾ及以テ駐留ニ却ル

補給ニヨラエウエウニ其地トシ黒船トシ兵隊ヲ利用スル

事ナシヨラエウエウニ三連輸支部ノヲ置ラマトリナシ

加、第十四師團カ第十二師團トモテ上陸ニ第十三師團モ他師團ト

支代セシムルニモトナシ

第十三師團ノ運送ノ事ナシニ以テ上陸ノ事ナシ

終

大正八年三月三十日

起案日

起案者

捺印

四月一日

發付日

發付掛

捺印

發付後起

案書捺印

大正八年三月三十日

事務局長

副官

參事官

第一課長
第二課長

小林

官房

官房

軍令部長

次長

官房

各班長

大正八年四月一日

大臣

極秘

各鎮第一第二艦隊司令長官
遣支練習艦隊各要隘南防司令官

連名各通

西比利亞方面派遣帝國陸軍三團不件

今般第十四師團ヲ露領ニ派遣シ第十二師團ト支

官房機密第四二七

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務官房受	官房四月一日	局部受月日	發月日
四一															

0042

代セシヲラル・ノト相成候條比昔心得ヘシ

右訓令ス

追テ第十四師團、未四月上旬其衛戍地出發シ青
森ヨリ兼船浦塩、上陸ノ豫定、有之候

明治御製

0043

極秘

官房機密第四二七號

大正八年四月一日

海軍大臣加藤友三郎

各鎮守府、第一、第二艦隊司令長官殿

各要港部、遣支、練習艦隊司令官殿

臨時南洋群島防備隊司令官殿

西北利亞方面派遣ノ帝國陸軍ニ関スル件

今般第十四師團ヲ露領ニ派遣シ第十二師

團ト交代セシメラルコトト相成候條此旨心得

ヘシ

右訓令ス

追テ第十四師團ハ来四月上旬其衛戍地ヲ出發シ



0044

青森より乗船浦塩ニ上陸ノ豫定ニ有之候
終

0045

大正八年五月五日
起案者 發付後起
發付掛 案者捺印

車務局長 第一課長

次官 (印) 參事官 副官 小林 (印) 德原 (印) 松本 (印)

午後

先 軍令部長

次長 (馬) 第一班長 (印) 第三班長 (印) 第二班長 (印)

大正八年五月五日 大臣

極秘

第三艦隊司令長官

西伯利亞於此鐵道及水路準備之件

本件之關し別紙通閣議決定矣奈比旨心得し

官房機密第六〇六號

軍令	水路	臨建	教育	造兵	技本	法務	經理	醫務	機關	艦政	人事	軍務	官房	局部
												官房	五月五日	受月日 發月日

0046

右訓令又

(別紙三葉添)

明治印刷

0047

陸軍省蒲中佐電話詰り説明要領

別紙閣議決定事項ニ関シ

一 過般來在西比利西、日米兩軍間、過激派ニ對スル考

ニ於テ相違セシムル種々其合應ルキ處アリタルニ依リ、

主音ヲ日米兩軍行動ノ協調ヲ保ツル必要ト認メ別紙

ノ主音ヲ陸軍大臣ヨリ米大使ヘ

外ハ大臣ヨリ米大使ヘ申入レ

内相談纏マリタルニヨリ

閣議ニテ帝國ノ方針ヲ定メ死ニテ示サリ

ニ今後

別紙方針ヲ英米公等トモニ協成シ決定

(修正印刷稿)

5-2

0048

上、実行ニ移スル事ハシ

海軍

(明治印刷)

0049

軍務局



第一課長
第二課長

四月三十日

大正八年四月二十九日陸軍省

極秘

閣議決定

閣議提出案

西伯利亞ニ於ケル鐵道及水路ノ守備ニ就テ

西伯利亞ニ於ケル聯合軍行動ノ協調ヲ保持スル爲
鐵道及水路ノ守備ニ關シ左ノ如ク關係列國間

ニ於テ協定スルヲ要ス

一 鐵道ノ守備地域ハ線路ノ兩側
沿線上市街ニ在リテハ其ノ外側ニ於

テ各露國火砲ノ最大射程ニ若干ノ距離ヲ加

ヘタル一帯ノ地域トス(例ヘハ日本軍ノ野砲ニ付テ

謂ヘハ其ノ最大射程ヲハ吉米トシ更ニ二吉

馬

軍令部

0050

米ヲ加ヘ計十吉米ヲ以テ地域ノ限界ト爲スカ
如シ)

二、鐵道守備地域内ノ治安維持ハ列國軍隊之ニ任

シ（此種團體ヲ指ス）敷派團體ノ存在ヲ許ササルノミナラス若シ

通入（此種團體ヲ指ス）スルモノアルニ當リテハ之ヲ擊退シ該地域外

ノ治安維持ハ露國軍之ヲ擔任ス但シ守備地

域外ニ在ル自國人ノ居住ハ當該國軍隊之ヲ

保護ス

三、守備地域ノ劃定ハ在西伯利亞列國軍憲ニ於

テ之ヲ協定ス

四、前諸項ハ之ヲ一般ノ交通ニ利用セラルル水路ニ

適用ス

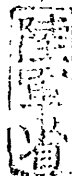
五、露國ニ於ケル穩健派政治團體現在ニ於テハ

「オムスリ」政府ニ對シ精神的及物質的ノ援
助ヲ與ヘテ西伯利亞ノ秩序恢復ニ任セシム
六、第一項ノ地域外ノ治安維持ニ任スル露國軍隊ノ威
力足スシテ列國軍ノ應援ヲ乞フ場合ニハ列國軍
憲協議シテ支援ヲ與フルコトアルヘシ

0052

陸軍省軍務局

北浦騎兵中佐



海軍省軍務局

吉田侯爵

親展

0054